

日本政府は参加を

広島・長崎両市長が会見

松井市長は、米国の大統領「核の父」のものとされるオーストラリアとノルウェーの政府代表と共に、同会議への参加を決めた経緯を聞き取ったと報告。オーストリア代表から、「今後の政府方針の情報収集のために参加した」との説明があった一方、ノルウェー代表は、「異なる立場の相手を論破するのではなく、核廃絶のための手

核禁条約会議

オーストリアのカーネギー・ハーバードの1月21～23日に開かれた核兵器禁止条約の第一回締約国会議に、田上富久長官は代表して参加した。松井一実広島市長は、田上富久長官は「日本が記憶を蘇らせる」改めて同会議への日本政府の参加を求めました。

原性を確認し、北大西洋条約機構(NATO)に参加する西側の立場を説明し、核禁条約の締約国となり譲るたために参加したと語ったとして、「オーストリア代表から、「まだ」と指摘しました。また、「まだ」と指摘しました。おた松井氏は、核保有国の調整を先行することこそがだわり同会議への参加を拒む日本政府に対し、「(同会議に参加して)核保有国と

じ感慨した」と主張。田上市長も、「同会議にオブザーバーとして参加した国々が(核保有国と非核保有国との)『架け橋』になつた」との声が上がったと報じた上で、「日本の参加が重要だ」と強調しました。